

監修

昭和薬科大学 病態科学研究室教授

田代 真一 先生

Q



漢方薬を服用していて尿が茶褐色になると患者さんから言われたが、そのまま服用させても大丈夫ですか。

A

大黄（だいおう）という生薬が含まれている漢方薬を服用すると、尿の色が濃くなったり、赤みを帯びたりすることがありますが、誰にでも自然に起こる現象です。普通は特に心配する必要はありません。大黄は主に、腸の動きを活発にさせ、便秘を解消する目的で使われます。その主成分であるセンノシドは、腸内にすんでいるピフィズス菌などの働きでレインアンスロンに変えられて、腸の動きを刺激しています。そのレインアンスロンは、レインと呼ばれる赤みを持った物質に変えられ、尿中に排泄されます。そのため、尿が濃くなったり、赤みを帯びたように見えたりするのです。

ただ、尿の色が濃くなったり、赤くなったりすることは、尿路に出血があったり、肝臓の働きが低下した場合などでも起こります。陰に病気が隠れていることもありえますのでご注意ください。



●ダイオウ含有製剤

乙字湯、大柴胡湯、柴胡加竜骨牡蛎湯、大黄牡丹皮湯、潤腸湯、治頭瘡一方、桃核承気湯、防風通聖散、調胃承気湯、大黄甘草湯、治打撲一方、通導散、三黄瀉心湯、麻子仁丸、大承気湯、桂枝加芍薬大黄湯、茵陳蒿湯、九味檳榔湯